

## 大椎小学校の田んぼの活動をふいかえって

昨年小山で児童が米作り体験をした大椎小学校の先生方から活動をふいかえっての感想をいただきました。

### ■自然に学び、人に学ぶ

小山町の谷津田で米作り体験活動を始めて3年が経ちました。

緑豊かな自然の中での作業は、子ども達にとって見るもの、聞くもの、触れるもの全てが新鮮で、時間の経つのも忘れてしまいます。代かき、田植え、草取り、稲刈りと長期間の作業です。子ども達は、作業の手順を小山 YPP の皆さんから教えていただき、慣れない手つきで懸命に取り組みました。また、自然観察の時間も設定していただき珍しい田んぼの生き物と触れ合うことができました。

4年前本校に赴任した際に感じたことがありました。恵まれた自然環境の中に育つ子ども達なのに五感を通して自然を学ぶ機会や時間が少ないと思いました。

YPPの方から米作りのお話をいただいた時はとてもありがたく思いました。バケツ稲栽培の体験がある教職員ではありますが、本物の水田で米作りをするというのは殆どの者が初めての体験でした。大人にとってもひとつひとつの作業がワクワクドキドキするものでした。

今年、15キロのお米を収穫することができました。YPPの皆様、米作りボランティアの皆様との収穫祭では、新米とみそ汁で楽しく会食することができました。

かけがいのない自然の営みを感じながら、地域の皆様とふれあうことができる喜びを感じています。これからも、どうぞよろしくお願い致します。

自然に学び、人に学ぶ。

(教頭 長妻徳治)



一列に並んで田植え (2009/6/1)

### ■谷津田の自然と米作り～素晴らしい自然の中で～

「さあ、今日はいよいよ稲刈りの日だ。楽しみだな。」「もっと力を入れて。コッコラショ。」「やったあ、こんなにいっぱい刈ったよ。」「重いね。」「どンドン運ぶよ。」等のさわやかな、明るい声が響く。子どもたちやご支援をいただいた皆さんとともに心の高まりと充実感、達成感を味わった一日でした。

振り返ると、多くの方々を支えられた一年でした。子どもたちはもちろん、私にとっても大変貴重な体験、経験ができたことに感謝したい。泥だらけになり、雑草を抜いたり、田植えをしたり、そして、収穫の稲刈り。谷津田の自然とそこに生息するいろいろな生物からも様々な感動をもらったすばらしい一年間でした。また、大椎っ子フェスタではみんなで頑張った「谷津田の自然と米作り」の発表会、支援して下さったボランティアの方々との感謝の会で試食したおいしいお米の味等は、子どもたちも私もいつまでも忘れないことだろう。一日一日、時間と手間をかけ、少しずつ少しずつ育っていく稲を思う時、自然の力とその偉大さを感じ取るとともにあらためてボランティアの皆様のおかげで支えて下さった優しさや温かい心遣いを感じました。

こうして学んだ数々のことは、これからの子どもたちの生活に大きな影響を与えることになるだろう。本当にありがとうございました。(1組担任 江川)



田んぼの自然観察 (2009/7/9)

■「自分で作ったお米の味はいつもと違って格別だった。」「ボランティアの方や、自然の恵みに感謝したい。」「もし大人になって地域で田んぼのボランティアの取り組みがあったら、ぜひ入ってみたい。」このような言葉を、子どもたちの感想の中で読んだとき、私も1年間米作りを体験させることができたと改めて思いました。

田舎生まれ田舎育ちの私にとって、田んぼのあぜ道は通学路でした。季節によって成長していく稲や、色を変えていく稲穂が、かくれんぼやとんぼ採りのかっこうの場所だったことを今でも覚えています。

子どもたちにとってもこの谷津田との出会いは一生忘れられないものとなることでしょう。あすみが丘のす

ぐ隣に、こんなにも自然豊かな魅力あふれる場所があったことを、初めて知った時のあのキラキラした目や笑顔がとても印象的でした。普段教室ではおとなしい子が、泥の中をキャーキャー言いながら走り回ったり、稲を担いで重そうにしている女の子に「もってあげるよ。」と優しく声をかけたりしている男の子がいたり、この米作りで得たものは、もちろんおいしいお米もありますが、それだけではなかったと感じました。

子どもたちのために、この米作りにご協力下さった多くの方々に本当に感謝申し上げたいと思います。ありがとうございました。(2組担任 高橋)

■1月の寒い朝、家庭科室は新米の炊ける匂いと子どもたちの笑顔で満ち溢れていました。

田植え稲刈りを楽しみ、少しでもたくさん収穫し、自分たちで作ったお米を味わってもらいたいという YPP の方々、学年を超えた保護者ボランティアの方、小山町の皆様のご支援とご指導のおかげで、あんなにおいしい新米を食べることができました。

頭で覚えたことは忘れても体で覚えたことは忘れないと言われていました。田んぼに足を入れたときのなんともいえない感触や稲を刈り取るときの感触。また、田んぼの中でオタマジャクシやザリガニをつかまえたこともいつまでも記憶に残る価値ある体験ができたと思います。

また、「源はこの地わが丘行く流れ 千葉の緑をうるおして～」と大椎小学校の校歌にもある湧き水を利用した谷津田の田んぼでの体験であったことも……

ありがとうございました。(3組担任 新澤)



力を合わせて稲刈り (2009/10/2)

## 谷津田いきもの図鑑 No. 39

### スギナ

ツクシが地面から顔を出したのを見つけると、春を見つけたようでウキウキした気分になりますね。このツクシはスギナが子孫を増やすための胞子を作る茎で、先端の丸いところ(胞子囊-ほうしのう)が筆のように見えるので感じてツクシのことを「土筆」と書くようです。ツクシには葉緑素がないので肌色で、節のところにギザギザの輪になった「袴(はかま)」が付いています。生長したツクシの胞子囊をつつくと緑色のほこりのようなものが出てくるのが胞子です。

ツクシが生長したあとに緑色の茎が地面から出てきます。地下茎を張っているの、掘ってみるとツクシとつながっているのがわかります。後から出てくる茎では節から輪になって細い棒のような葉が出ますが、それが杉に似ていることからスギナと名付けられました。



田んぼに生えるイヌスギナ (小山 2009/5/5)

ツクシは春の山菜としてよく知られていて、下大和田恒例の野草を食べる会でもツクシのおひたしや炒め物は定番メニューです。袴は取ってから調理した方が口当たりがいいですよ。スギナの「ナ」はツクシが食用になることから「菜」の意味のようです。

スギナは薬草としても古くから用いられていて、乾燥した生薬は問荆(もんけい)と呼ばれて利尿作用があり、腎臓病をはじめいろいろな病気に薬効があるそうです。

田んぼの中でスギナそっくりな草を見かけることがありますが、多くの場合それはイヌスギナという別の植物で、スギナよりももっと湿気の多い場所を好むようです。スギナの場合、胞子囊が付く茎には緑の葉が出ないのですが、イヌスギナは緑の葉をつける茎の先端に胞子囊ができます。また、イヌスギナの方がスギナよりも背が高くなります。スギナもイヌスギナも田畑の雑草として嫌われています。

イヌスギナには毒性があって、牛などの家畜が食べて中毒を起こした事例があるそうです。ツクシにも弱いながら同じような毒が含まれているので、食べ過ぎには注意した方が良いでしょう。それはツクシに限らず、野草全般に共通していますが。

(高山邦明)





# 里山たんけんレポート

## 第 121 回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2010 年 2 月 7 日(日) 晴れ

冬型の気圧配置で晴れましたが風が強く吹き荒れていました。

厳寒の中、セイヨウタンポポ、オオイヌノフグリ、ヒメオドリコソウなどが道端に咲いていました。ノグシ、オニノグシなどのロゼットやニワトコ、クズのこども顔の葉痕を見たり、ヤマグワとヒメコウソの冬芽と葉痕での見分けなど観察しながら一方で耳を澄まし鳥影を求めて下流部の沼まで巡りました。ウサギの糞があったり、ヤナギのように見える蔓植物があったり、冬のこの時期にしか入れない谷津奥は探検のような趣もあります。

鳥影は薄く声もまばらでしたが、エナガ、シジュウカラ、アオジ、モズ、シロハラなどがそこここに現れ、真近を飛翔するオオタカに歓声をあげました。一巡したところではノスリの飛翔も見られました。

田んぼではメダカが出ていました。小川ではクサガメも見つかりました。この寒い時期にどうして姿を現したのでしょうか。ちょっと怪我をしているようでした。

YPP 田のニホンアカガエルの卵塊は 2 月 5 日時点で 88 個でしたが寒波が来ているこの一両日に産んだと思われるような新しいものもありました。寒さが緩み雨模様の晩あたりに産卵がもうひと山ありそうです。

(参加者 大人 6 名、子ども 2 名； 報告：網代春男)

## 第 105 回 下大和田 YPP「アカガエルの卵塊しらべと林や田んぼの手入れ」

2010 年 2 月 20 日(土) 晴れ

前日まで続いた寒さも緩み久々の青空が広がりました。午前中、YPP 田んぼでニホンアカガエルの卵塊の調査をしました。今年もアカガエルはたくさんの卵を産んでいます。これまで 1 月 29 日の初確認以降 2 月 10 日までの数回にわたる調査で計 151 個の卵塊が確認されています。今回は参加者全員で畦を歩き、田んぼをひとつずつ見てアカガエルの卵塊の調査と観察しました。今回確認できた新しい卵は 8 個でした。透き通っていてひとつひとつの卵が小さいためすぐにわかります。ほかの多くの卵塊は泥をかぶり卵が大きくなっています。中にはかたまりがばらけ



すでにオタマジャクシが出ているものもありました。参加者の皆さんはスタッフの説明を聞きながら興味深そうに観察していました。卵の一部を実態顕微鏡で観察もしました。



昼食後は林の手入れをしました。下草をスタッ



フと参加者の皆さんで除去しました。特に広場の斜面の上部に密生していたアズマネザサが枯れたため今回取り払うことができました。そうしたら見晴らしが良くなりすばらしい広場となりました。大きな榎に太い藤の蔦が絡まり絶好の木登り場ができました。早速みんなで木登り大会です。大人も子供も新しい森の恵みに浸ることができました。

(参加者大人 13 人、小学生 4 人、幼児 6 人； 報告：

平沼勝男)

## 第 53 回 小山町 YPP「自然観察と田んぼの手入れ」

2 月 27 日に予定されていましたが、荒天のため中止となりました。



## <谷津田・季節のたより>

### 小山町

- 2月12日 アカガエルの卵塊数がぐんと増える。トウキョウサンショウウオの産卵も確認(齊藤)。  
2月14日 今シーズン数が少なかったツグミやカシラダカをよく見かけるようになる(高山)。  
2月21日 フキトウが顔を出す。モズのペアが並んで枝に止まり、オスが優しい声色でホオジロ、メジロなど他の鳥の鳴き真似を披露していた。カケスも鳴きまねをするのを耳にする(高山)。

### 下大和田

- 2月20日 早くもニワトコが芽を出していた(渋谷)。

## イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ? と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPPのイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター (TEL&FAX: 043-223-7807 E-mail: hello@ceic.info/)

ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないください。

・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。

・小学生以下のお子さんは保護者同伴で参加ください。

・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

### ▼第106回 下大和田 YPP「味わおう! 春の谷津田」

春恒例の野草を食べる会です。谷津を散策して摘んだヨモギ、ニワトコ、セリなどの野草を天ぷらやおひたしにして味わいましょう。ちょっと苦みのある春の味をお楽しみに。

日時: 2010年3月20日(土) 10:00~14:00 \*小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)

集合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に10:00(JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:53、9:08、9:23など> 料金は520円)

持ち物: 弁当、お椀・お皿、飲み物、長靴、軍手、敷物など。

参加費: 小学生以上一律500円(食材費を含む特別料金です)、小学生未満無料

主催: ちば環境情報センター 共催: ちば・谷津田フォーラム

### ▼第123回 下大和田 4月の谷津田観察会とごみ拾い

コブシやクロモジ、サクラなどの木々、スミレの仲間や春の草々が盛りです。ファールブル実体顕微鏡で花の細部を観察しましょう

日時: 2010年4月4日(日) 観察10~12時 午後は田んぼの作業など自由活動 \*小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(下大和田 YPP に同じ)

集合: 下大和田 YPP に同じ

持ち物: 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など

参加費: 100円(小学生以上、資料代など)

主催: ちば・谷津田フォーラム 共催: ちば環境情報センター

### ▼第53回 小山町 YPP「自然観察と田んぼの手入れ」

早春の谷津を散策して草花や野鳥などを観察しましょう。また、今年の米作りに向けて田んぼの手入れもしたいと思います。小さなお子さんの参加も歓迎です!

日時: 2010年3月14日(日) 10:00~12:30 \*小雨決行

場所: 千葉市緑区小山町 リンドウ広場  
(ご連絡いただければ地図をお送りします)

持ち物: 飲み物、長靴、軍手、帽子、敷物など。

参加費: 100円(小学生以上、資料代など)

主催: ちば環境情報センター

**編集後記** バンクーバーオリンピックが終わりました。トップアスリートたちの真剣なまなざし、笑顔、涙にたくさんの感動と元気をもらいました。振り返って私たちの田んぼの活動はオリンピックのような派手さはありませんが、地道に長く続けているという意味ではメダルに値するのでは。何せ下大和田の米作りがはじまった10年前、真央ちゃんは頭角は現していたようですがまだ小学校4年生でした。と書きながらジャンプの葛西選手が今回6回目のオリンピック出場だったことを思い出し、上には上がいるものだと思います。私たちががんばりましょう!

(高山邦明)

